

〔関連書籍〕

馬場毅, 許雪姬, 謝国興, 黄英哲 編

近代台湾の経済社会の変遷—日本とのかかわりをめぐって

東方書店／2013年12月／定価(本体6,000円+税)

2012年8月に愛知大学名古屋校舎で開催した国際シンポジウム「近代台湾の経済社会変遷—日本とのかかわりをめぐって」(愛知大学東亜同文書院大学記念センターおよび台湾・中央研究院台湾史研究所との共催)において発表した19名による論文集。取り扱われるテーマは、法制、文学、金融、企業経営、官僚、東亜同文書院、台湾協会など多岐にわたり、多くの論考は日本とのかかわりを持って論述されています。



——内容構成——

- 第一部 東亜同文会・東亜同文書院と近代日本・台湾
- 第二部 近代台湾法制の伝承と変容
- 第三部 近代台湾文学・文化の変遷
- 第四部 近代台湾の経済変遷
- 第五部 植民地・戦後における官僚の流動
- 第六部 戦後再建

＜執筆者＞

馬場毅／武井義和／佃隆一郎／王泰升／曾文亮／劉恒玟／陳培豊／黄美娥／工藤貴正／李衣雲／黄紹恒／謝国興／李為楨／楊彦杰／許雪姬／湯原健一／薛化元／鍾淑敏／菊池一隆

〔関連書籍〕

愛知大学東亜同文書院大学記念センター 編

同文書院記念報VOL.22 別冊①、②

愛知大学東亜同文書院大学記念センター／2013年12月／無料配布

2013年12月に開催された国際シンポジウム「近代日中関係史の中の東亜同文書院」の予稿集。2テーマを2日間にわたり報告された総勢13名による論文を収録。なお、『同文書院記念報VOL.22』では、シンポジウム両日の最後に行われた「総合討論」を収録しております。

別冊①

【東亜同文書院・大旅行調査から見る近代アジア】

———目次———

- 東亜同文書院生の大調査旅行の展開と記録された中国像
藤田佳久(愛知大学名誉教授、東亜同文書院大学記念センター・フェロー)
- 書院生の見た中国—五四運動後の対日反応を中心に—
劉柏林(愛知大学現代中国学部教授)
- 大旅行調査から見た東南アジアと日本
加納寛(愛知大学国際コミュニケーション学部教授)
- 大旅行調査からみる四川辺疆
—27期(1930)巴蜀岷涪経済調査班「成都-松潘」日誌を読み解く
松岡正子(愛知大学現代中国学部教授)
- 大旅行ルートの Google Earth によるトレース
—第12期生の「雲南班」の調査コースから—
増田喜代三(愛知大学大学院中国研究科大学院生)
- 大旅行駐在班の調査成果からみた明治期における昆布生産・輸出状況—山田良政の進路にも着目して—
高木秀和(愛知大学大学院文学研究科大学院生)
- 書院生の内モンゴル中西部の社会経済調査を中心に
曉敏(愛知大学東亜同文書院大学記念センター研究員)
- 明治期における同文書院のモンゴルでの調査旅行について
烏力吉陶格套(内蒙古大学蒙古学学院歴史学系准教授)

同文書院 記念報VOL.22 別冊①

愛知大学東亜同文書院大学記念センター／紀要

国際シンポジウム「近代日中関係史の中の東亜同文書院」

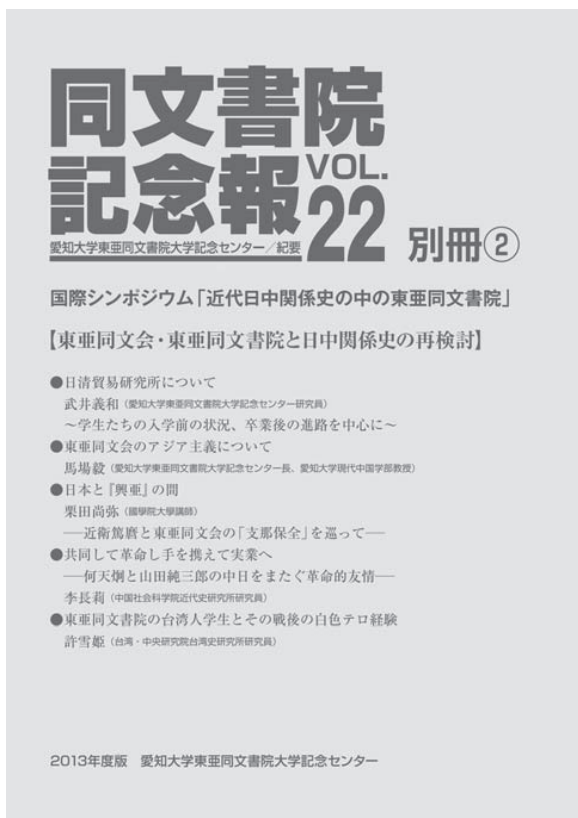
【東亜同文書院・大旅行調査から見る近代アジア】

- 東亜同文書院生の大調査旅行の展開と記録された中国像
藤田佳久(愛知大学名誉教授、東亜同文書院大学記念センター・フェロー)
- 書院生の見た中国—五四運動後の対日反応を中心に—
劉柏林(愛知大学現代中国学部教授)
- 大旅行調査から見た東南アジアと日本
加納寛(愛知大学国際コミュニケーション学部教授)
- 大旅行調査からみる四川辺疆
—27期(1930)巴蜀岷涪経済調査班「成都-松潘」日誌を読み解く
松岡正子(愛知大学現代中国学部教授)
- 大旅行ルートの Google Earth によるトレース
—第12期生の「雲南班」の調査コースから—
増田喜代三(愛知大学大学院中国研究科大学院生)
- 大旅行駐在班の調査成果からみた明治期における昆布生産・輸出状況
—山田良政の進路にも着目して—
高木秀和(愛知大学大学院文学研究科大学院生)
- 書院生の内モンゴル中西部の社会経済調査を中心に
曉敏(愛知大学東亜同文書院大学記念センター研究員)
- 明治期における同文書院のモンゴルでの調査旅行について
烏力吉陶格套(内蒙古大学蒙古学学院歴史学系准教授)

2013年度版 愛知大学東亜同文書院大学記念センター

別冊②

【東亜同文会・東亜同文書院と日中関係史の再検討】



———目次———

- 日清貿易研究所について
～学生たちの入学前の状況、卒業後の進路を中心に～
武井義和（愛知大学東亜同文書院大学記念センター研究員）
- 東亜同文会のアジア主義の変遷
馬場毅（愛知大学東亜同文書院大学記念センター長、愛知大学現代中国学部教授）
- 日本と『興亜』の間
—近衛篤磨と東亜同文会の「支那保全」を巡って—
栗田尚弥（國學院大學講師）
- 東亜同文会の対朝鮮事業
堀田幸裕（一般財団法人霞山会文化事業部研究員）
- 共同して革命し手を携えて実業へ
—何天炯と山田純三郎の中日をまたぐ革命的友情—
李長莉（中国社会科学院近代史研究所研究員）
- 東亜同文書院の台湾人学生とその戦後の白色テロ経験
許雪姬（台湾・中央研究院台湾史研究所研究員）

〔関連書籍〕

武井義和著、愛知大学東亜同文書院大学記念センター編

孫文を支えた日本人 山田良政・純三郎兄弟〔増補改訂版〕

(株)あるむ／2014年3月

2011年3月に辛亥革命100周年に際して刊行されたブックレットの増補改訂版。孫文の革命を支援した津軽弘前出身の山田良政・純三郎兄弟の生涯について、弘前とのつながりを踏まえつつ、孫文が指導した辛亥革命や中国革命での活動を中心に引き上げ、愛知大学東亜同文書院大学記念センター所蔵の史料を用いて紹介しています。今回、山田兄弟と孫文との関わりを示す写真史料を新たに追加したほか、孫文にゆかりのある神戸や長崎で同記念センターが開催した資料展示会・講演会の様子も収録しました。

山田兄弟についての概説書として、写真史料を多く使うとともに説明文を分かりやすくし、初版同様に初めて読む方にも理解しやすいように心掛けたブックレットです。本書を通じて、多くの方に山田良政・純三郎兄弟を知って頂くとともに、日中関係の今後のあり方を考える際の参考にして頂けたら幸いです。

愛知大学東亜同文書院ブックレット ⑦

孫文を支えた日本人

山田良政・純三郎兄弟 〔増補改訂版〕

武井義和



―目次―

刊行に寄せて／増訂版出版によせて

1. 山田良政・純三郎兄弟
 2. 弘前と辛亥革命―孫文を支えた山田良政・純三郎兄弟
 3. 山田兄弟のふるさと、津軽弘前
 4. 弘前を訪れた革命家たち
 5. 山田良政―孫文の革命活動に命を捧げた男
 6. 山田純三郎―兄の遺志を受け継いだ孫文の「秘書」役
 7. 純三郎の心の支えとなったもの
 8. 愛知大学が所蔵する孫文と山田兄弟の関係史料
 9. 記念センターが各地で開催した主な資料展示会・講演会
- おわりに

〔関連書籍〕

藤田佳久 監修・解説

高木宏治 編集

東亜同文会報告(全26巻)

ゆまに書房／2012年10月／定価(本体395,000円+税)

愛知大学名誉教授であり、東亜同文書院大学記念センターフェローでもある藤田佳久氏による監修および解説、さらに他大学の所蔵しているバックナンバーを含め、このたび復刻されました。

【本書の内容】

辛亥革命以前までの日清・日朝関係とそのダイナミズムを生々しく伝える第一級史料

日清戦争で日本が大国であった清国に勝利すると、それまで欧米中心に指向していた政府や民間人の眼が中国(清国)を中心にしたアジアへも向けられるようになった。そのような中で誕生した東亜会と同文会は1898(明治31)年に合併して東亜同文会を組織、同文会のリーダーであった近衛篤磨が会長になり、さらに2年後には亜細亜協会も合流した。東亜同文会の成立により、それまでの同文会の機関紙『時論』は『東亜時論』と改題、さらに『東亜同文会第〇回報告』と改称され、1910(明治43)年6月まで132回分が刊行された。編集と刊行は東京にあった東亜同文会で、概ね毎月1回の刊であった(明治43年は2回)。

内容は、同会の清、朝鮮を中心とした教育文化の交流と事業の進捗状況やそれらの地域の時事情報収集の目的に沿うものである。すなわち、会の運営経過のほか、上海、天津、南京、福州、広東、漢口、京城、平壤、ウラジオストック等、各地の通信員による生き生きとした記事がその時代の動きを正直に伝え、それに各地の視察団など雑録がバックデータを添えている点に特色がある。刊行時期は辛亥革命直前までであり、同会の多彩な学校経営と清末期の清国と朝鮮及び日清関係のダイナミズムを伝える貴重な資史料である。

【東亜同文会】

1898年、これまで別々に活動していた「東亜会」(1897年設立)と、「同文会」(1898年設立)が合併し、その他の幾つかの団体を吸収して設立した。以後、1946年(昭和21年)まで活動した民間外交団体及びアジア主義団体である。上海に設立された東亜同文書院の経営母体でもあり、現在の霞山会の前身である。

創立時の会長は貴族院議長であった近衛篤磨。主な関係者として、犬養毅、池辺三山、内田良平、江藤新作、大石正巳、小川平吉、柏原文太郎、岸田吟香、陸羯南、小村欣一、笹森儀助、志賀重昂、副島種臣、竹越与三郎、谷干城、内藤湖南、福本日南、宮崎滔天、渡辺洪基らがあ

